

科目名	動作分析学						
科目名(英)	Motion analysis						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松崎 哲治		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解する。 2. 運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深める。 3. 何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用い分析する。 4. 分析結果より問題点を理解する。 5. 分析することの楽しさを学ぶ。						
授業形式	講義: Δ	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:Δ		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			運動学・臨床運動学で学んだ基礎知識をもとに動作分析の意義と重要性について理解を深めることができる	
	○	○	○			何らかの疾患によって生ずる運動機能異常、正常運動からの逸脱を種々な機器を用い分析できる	
	○	○	○			正常な運動・姿勢・動作を機器を用いて理解できる	
	○	○				分析結果より問題点を理解することができる	
○	○				分析することの楽しさを学ぶ		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1) Gots-Neumann著: 観察による歩行分析. 医学書院, 2007. 2) 石井慎一郎: 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社, 2013. 参考文献: 1) 中村隆一: 基礎運動学第6版. 医歯薬出版株式会社, 2003. 2) 嶋田智明・平田総一郎著: 筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 動作分析とは?①			教科書の予習をしておく。		
	2	動作分析とは?②			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	力学について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	動作解析(床反力計・三次元動作解析)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	筋について			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	筋電図(筋電図とは・筋電計測の仕方)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	研究①(実験立案)			教科書の予習をしておく。		
	8	研究②(実験計測)			教科書の予習をしておく。		
	9	研究③(実験データ解析)			教科書の予習をしておく。		
	10	研究③(実験データ解析)			教科書の予習をしておく。		
	11	研究③(実験データ解析)			教科書の予習をしておく。		
	12	研究発表会① * 1(1・2・3班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	13	研究発表会② * 1(4・5・6班発表)			教科書などで知識の予習をしておく。		
	14	研究発表まとめ・国家試験対策			研究発表のまとめを行うので、各班の発表の振り返りをしておくこと		
15	総まとめ			これまでの授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)実習レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎	○			90%
	実習レポート	◎	◎	○	○		10%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学Ⅱ						
科目名(英)	Activities of daily living Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 日常生活におけるセルフケアの役割について理解する 2. 日常生活を支援する機器について理解する 3. 疾患別日常生活の障害について理解する 4. 日常生活活動訓練について理解する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活におけるセルフケアの役割について理解できるようになる	
	○	○				日常生活を支援する機器について理解できるようになる	
	○	○				疾患別の日常生活における障害について理解できるようになる	
	○	○				日常生活活動練習について理解できるようになる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 監 日常生活活動学テキスト 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	日常生活の中でのセルフケアの役割				教科書の予習をしておく。	
	2	グループ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	3	グループ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	4	疾患別セルフケア①中枢神経障害(脳卒中)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	5	疾患別セルフケア②中枢神経障害(パーキンソン病)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	6	疾患別セルフケア③中枢神経障害(脊髄損傷)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	7	疾患別セルフケア④運動器障害(関節リウマチ)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	8	疾患別セルフケア⑤運動器障害(大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	9	日常生活活動練習①(起き上がり)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	10	日常生活活動練習②(起立・着座)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	11	日常生活活動練習③(移乗)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	12	日常生活活動練習④(歩行)				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	13	演習問題・国家試験対策①				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
	14	演習問題・国家試験対策②				教科書の予習をしておく。 授業内容、実技の復習をしておく。	
15	まとめ				これまでの授業資料を復習しておく。		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	運動療法学						
科目名(英)	Therapeutic Exercise						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	齊藤貴文		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	本科目は、理学療法の治療学でもある運動療法の基礎的な知識、技術を習得する科目である。関節可動域制限に対する理解から改善のための理学療法実践、筋力低下に対するプログラムの実践を含め、基本的な運動療法技術と理論について学んでいく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動療法の概念・治療構造・根拠を理解し説明できる。	
	○	○	○			関節可動域制限とその治療法について理解し実践できる。	
	○	○	○			筋力低下とその治療法について理解し実践できる。	
	○	○				検査結果の解釈から基本的な治療を実践できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・市橋則明:運動療法学 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂 ・月城慶一:観察による歩行分析. 医学書院 千住秀明:機能障害科学入門. 神稜文庫 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動療法概論				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	関節運動学: 関節可動域制限とその治療				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	関節可動域運動の実際(他動的関節可動域運動)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	関節可動域運動の実際(伸張運動): 下肢				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	関節可動域運動の実際(伸張運動): 上肢・体幹				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション): 総論・上肢				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	関節可動域運動の実際(関節モビライゼーション): 下肢				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	筋力低下と理学療法(総論)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	筋力低下と異常歩行① 大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	筋力低下と異常歩行② 前脛骨筋・下腿三頭筋				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	検査結果の解釈(関節可動域制限・筋力低下)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	神経筋再教育(総論・考え方・PNF法紹介)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	国家試験問題①				これまでの授業内容の復習をしておく	
	14	国家試験問題②				これまでの授業内容の復習をしておく	
15	まとめ				試験対策		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技、筆記)	○	◎	◎			100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	物理療法学						
科目名(英)	Physical Agents						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	熊丸 真理		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1.物理療法の種類、定義、目的の説明ができる。2.各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。3.各物理療法機器の取り扱い、リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけ、歴史的発展過程を説明できる。	
	○	○				物理療法の適応の多い病態を理解し、発生メカニズムを説明できる。	
	○	○				各物理療法の種類、定義、目的、生理学的作用が説明できる。	
	○	○		○		各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できるようになる。	
	○	○		○		疾患に合わせた物理療法機器の選択ができ、その思考過程を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	吉田秀樹 編:Cross link理学療法学テキスト 物理療法学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	物理療法導入ーオリエンテーション、物理療法体験ー物理療法ってなんだろう?患者様の気持ちになって考えてみよう			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	物理療法総論ー物理療法に必要な生理学、主な病態の理解①ー炎症・疼痛を中心に			小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと		
	3	主な病態の理解②ー炎症・疼痛を中心に			小テストの復習 該当の生理学の内容を復習しておくこと		
	4	温熱療法①講義(ホットパック、パラフィン) 温熱療法①実技(ホットパック、パラフィン)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	温熱療法②講義(超音波、超短波、極超短波) 温熱療法②実技(超音波、超短波、極超短波)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	寒冷療法講義 寒冷療法実技(コールドパック・アイスマッサージ)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	牽引療法講義 牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	牽引療法実技(頸椎・腰椎間欠牽引) 水治療法講義			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	水治療法実技(渦流浴、気泡浴、全身浴、アクアサイザー)			授業資料を復習し、実技に望むこと		
	10	電気療法講義(TES、TENS、FES、電気診断法)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	電気療法実技(TES、TENS、FES、電気診断法)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	光線療法講義(赤外線、紫外線、レーザー) 光線療法実技(赤外線、紫外線、レーザー)			小テストの復習 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	疾患別物理療法・国家試験対策			これまでの授業内容を復習しておくこと		
	14	OSCE・国家試験対策			これまでの授業内容を復習しておくこと		
15	まとめ			これまでの授業内容を復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で中間テストを1回実施する。(2)レポートを1回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	宿題・レポート	◎	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	義肢装具学						
科目名(英)	Prosthetics and orthotics science						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	遠藤 正英		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1.リハビリテーションにおける義肢装具の重要性と役割について理解する。 2.義肢装具の種類・目的・構造について理解する。 3.装具の疾患に対する適応・活用方法を理解する。 4.義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		リハビリテーションにおける義肢・装具の目的と役割について説明できる。	
	○	○		○		装具の種類とその目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
	○	○		○		疾患別に必要な装具を目的とその方法について説明できる。	
	○	○		○		義肢の種類と目的について力学的要素を踏まえて説明できる。	
○	○		○		義肢装具の作製過程を学び多職種との協力について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	神陵文庫出版 理学療法テキストVI 義肢装具学 第2版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	義肢装具総論 義肢装具の支給体系				教科書の予習しておく。	
	2	義肢装具の製作と材料 義肢装具におけるバイオメカニクス				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	3	義肢 切断者のリハビリテーション 切断者の動向				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	4	適合とアライメント				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	5	上肢切断の理学療法に必要な知識				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	6	下肢切断の理学療法				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	7	装具 装具の定義・目的・固定の原則				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	8	装具の種類と構造(上肢装具、下肢装具、体幹装具)				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	9	脳卒中片麻痺の装具 脳卒中片麻痺患者の特徴				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	10	脊髄損傷の装具				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	11	骨・関節疾患の装具				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	12	脳性麻痺の装具				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	13	側弯症の体幹装具				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
	14	靴型装具の基本構造と種類				教科書の予習しておく。 授業資料を復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		100%
履修上の注意							

科目名	内部障害 I						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山口 寿		
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 呼吸の解剖と換気・ガス交換について説明ができる。 2. 代表的な呼吸器疾患の発生機序と病態が説明できる。 3. 呼吸機能の評価、治療の実際を理解する。 4. リスク管理ができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において呼吸器疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				呼吸器理学療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○		○		チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法 呼吸 第2版」石川朗+玉木彰 編 配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸理学療法総論				教科書を確認しておく	
	2	呼吸系の解剖学・運動学				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	3	呼吸器系の生理学				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	5	呼吸理学療法のための評価(1) 医療面接・フィジカルアセスメント				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	6	呼吸理学療法のための評価(2) その他の評価				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	7	呼吸理学療法手技(1) コンディショニング				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	8	呼吸理学療法手技(2) 肺痰法・肺炭で用いる徒手の手技				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	9	呼吸理学療法手技(3) 呼吸困難改善の手技				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	10	呼吸理学療法手技(4) 運動療法				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	11	酸素療法と呼吸理学療法				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	12	人工呼吸療法と呼吸理学療法				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	13	疾患別呼吸理学療法(1) 慢性呼吸不全				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	14	疾患別呼吸理学療法(2) 急性呼吸不全(癌含む)				授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う	
	15	疾患別呼吸理学療法(3) 吸引手技・臨床推論まとめ				総復習を含むため参考資料を準備しておく	
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	地域理学療法学								
科目名(英)	Community based physical therapy								
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	今別府 和徳				
実施年度	2021年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務				
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年								
授業概要	①地域リハビリテーションおよび地域理学療法の概念を理解する。 ② 地域理学療法の対象および関連制度を理解する。 ③地域での理学療法士の働き方、実際の地域理学療法の展開を理解する。 ④地域理学療法の実際について展開できる。 ⑤地域の社会資源を理解し、アセスメントできる。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	○	○				地域リハビリテーションおよび地域理学療法の概念を理解する。			
	○	○				地域理学療法の対象および関連制度を理解し、必要な知識を習得する。			
	○	○				地域での理学療法士の働き方、実際の理学療法の展開を理解する。			
	○	○				事例からリハビリテーション実施計画書・週間サービス計画表を作成し、理学療法アプローチを立案する。			
	○	○				地域の社会資源を理解し、地域アセスメントができる。			
テキスト・教材 参考図書	教科書:浅川育世編:ビジュアルレクチャー地域理学療法学. 医歯薬出版株式会社, 2019								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	地域リハビリテーションおよび地域理学療法の概念				予習として、テキストviページ・vページ・ivページを、その順に読み、それぞれ200字程度にまとめること。			
	2	地域理学療法の対象および関連制度				講義内容の予習・復習しておく。			
	3	住み慣れた地域において生活を支援する上で必要な知識				講義内容の予習・復習しておく。			
	4	地域理学療法の実際(地域包括ケアと地域包括ケア病棟)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	5	地域理学療法の実際(介護保険訪問系サービス)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	6	地域理学療法の実際(介護保険通所系サービス)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	7	地域理学療法の実際(介護保険入所系サービス)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	8	地域理学療法の実際(介護予防・日常生活支援総合事業)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	9	地域理学療法の実際(障害者サービス)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	10	地域理学療法の実際(終末期ケア)グループ発表				今回の発表内容に関する復習を実施し、次の発表内容に関する予習しておく。			
	11	事例検討 課題抽出				グループ発表に向けた資料作成			
	12	事例検討 グループ発表				グループ発表に向けた資料作成			
	13	地域アセスメントの方法と実際 課題抽出				グループ発表に向けた資料作成			
	14	地域アセスメントの方法と実際 グループ発表				グループ発表に向けた資料作成			
	15	まとめ				今までの総復習をする。			
評価方法	(1)レポートを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				70%		
	小テスト								
	宿題・レポート	◎	◎				30%		
	発表・作品								
履修上の注意	グループワーク、レポート提出課題が多くあります。								